## 滞在報告

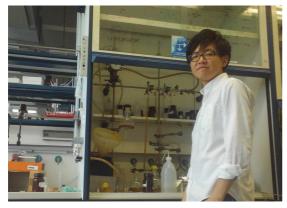
元素科学国際研究センター典型元素機能化学領域 修士課程一年 中谷 祐也

化学研究所若手研究者国際短期派遣事業の支援により、約7週間にわたり、ドイツ西部のAachen 工科大学 (RWTH), Bolm 研究室に滞在させて頂きました。Aachen はオランダ、ベルギーの国境にほど近いドイツ最西の都市で、世界遺産の大聖堂に代表される歴史ある建築物と街並みが特徴です。また町中に RWTH の研究施設が点在する学生の街でもあります。

Bolm 研究室滞在中は、現在私が日本で研究している木質バイオマスの資源化というテーマから離れ、当該研究室で現在注力されているスルホンアミン、スルホンアミド化合物の化学に携わりました。具体的には芳香族ジアゾニウム化合物とスルホンアミンを反応基質とした、ラジカル反応による芳香族スルホンアミド化合物の新規合成反応開発に現地の博士課程の学生と共に取り組ませていただきました。ドラフトチャンバー1台分の十分なスペースを与えていただき、また似た研究テーマを進めている学生とのディスカッションも可能な素晴らしい研究環境ではあったのですが、滞在期間の短さ、またエアコンのない環境下での熱波の影響等もあり、残念ながら十分な研究成果は得られませんでした。しかし、反応機構を考慮して目的化合物を得る反応をデザインするという、所謂"normal"な有機化学は今まで触れたことがないものであり、非常に貴重な経験となりました。

また Bolm 研究室は 30 人にも及ぶ大所帯で、ほとんどの人間が給料を貰って研究している立場であったため、ヨーロッパでの労働文化の一端に触れる機会ともなりました。日中はランチの時間を除いて黙々と各自の研究に取り組み、できる限り早くその日の予定を消化して、仕事終わりの時間を大切にしていました。また研究室も自由な雰囲気で、夕方には早々と仕事を切り上げ、共用スペースでビールを飲んでから帰宅するというメンバーも何人かいた程でした。

このような経験を得る貴重な機会を与えて頂いた関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。



▲実験中



▲仲良くなった中国人留学生に連れて行ってもらったお店のドイツ料理